

住民主体で福祉のまちづくりを推進する情報交流紙です

よつ葉のクローバー KIKUSUI

No.25 2009.9.30



福まち通信

菊水福祉のまち推進センター運営委員会
札幌市白石区菊水6条4丁目3-10
電話 011-887-7006 FAX011-887-7006
URL <http://www.kikusui-net.jp>



福まち活動写真コンクールで金メダル

札幌市社会福祉協議会では、福まちウイーク行事の一環として「福まち活動写真および広報紙コンクール」を開催しました。各地区福まちから応募のあった写真と広報紙作品のうち、おのこの20作品が選ばれ、9月17日社会福祉センターにおいて表彰式が行われました。また、受賞作品は同センターの1階アトリウムに9月13日から19日まで展示され、市民に公開されました。

菊水地区は2冠達成





前列右から4人目細野委員長、後が枝元編集員

菊水地区福祉のまち推進センター運営委員会から、写真2点と広報紙「よつ葉のクローバー14号」を審査対象として応募しましたところ、**写真は最優秀賞、広報紙は審査員特別賞**と二つの部門で受賞しました。(ちなみに、2部門で受賞したのは、菊水地区と厚別区の青葉地区のみでした。)

作品の応募状況は、写真は37地区から76作品、福まち活動単独の広報紙は35地区からの35

作品でした。審査は、写真の部は北海道芸術デザイン専門学校長・NPO法人北海道写真家ネット専務理事他2名、広報紙の部は北海道新聞NIE推進センター長・北翔大学人間福祉学部教授他2名の専門家により行われました。

福まちウィークとは 札幌市社会福祉協議会では、地域福祉活動の必要性と福まち事業の取り組みをより多くの市民や地域住民組織、福祉の関係団体にご理解いただくことを目的に、9月の第3週を「福まちウィーク」と位置づけ、この期間中に各種の事業を実施しています。

今年は、小学生の描く「人にやさしい福祉のまちづくりポスター展」と、「福まち活動写真および広報紙コンクール」「同表彰式」「同受賞作品展示会」が行われました。また、これに期を同じくして「地域福祉市民活動フォーラム」が開催されています。



地域福祉市民活動フォーラム開催

「福まちウィーク」の行事の一環として、9月17

日(木)午後1時半から社会福祉センター4階大会議室で、全市の福まち関係者を集めて、「地域福祉市民活動フォーラム」が行われました。





全体のテーマは、「マップづくりを通して、地域の連帯を深めよう」で、最初に社協の小平地域福祉課長から「市民活動計画における福まち事業の展開」についての説明がありました。続いて、このフォーラムの基調講演として、文京学院大学人間福祉学科助教菱沼幹男氏が「防災・支え合いマップづくりの促進と活用方法」について、大画面に投影されたパワーポイントを利用して判り易く公演されました。

- ①地域で幸せに暮らすためには、何が必要か
- ②そのためにどんな支援が求められているのか
- ③支援を必要とする人の個別的ニーズをどのように把握するのか
- ④その手段としてマップづくりが有用であること
- ⑤マップづくりは手段であって目的ではない、地域の課題を知ることから始まり、人と人とのつながりをつくるのが大切であると力説されました。



最後に、マップづくりの実践地区からその活動内容について説明がありました。最初は、東区北光地区福まち事務局次長掛端真知子さん、続いて西区西地区福まち事務局長望月弘子さんが説明されました。お二人とも民生・児童委員をされていて、取り組みの動機から始まり、個人情報の壁を乗り越える方法やその手段、研修の積み重ねなどについて詳しく説明されました。マップづくりの効果や保管・利用方法についても説明がおよびました。お話しを通じて、お二人の地域を思う熱い思いが聴衆に伝わり、割れるばかりの拍手が会場に響きわたりました。



さっぽろ市民福祉活動計画策定

札幌市社会福祉協議会は、平成16年に策定した「186万人の地域福祉市民活動計画」を全面的に見直し、「さっぽろ市民福祉活動計画」（活動期間平成21年度～平成24年度）を策定しました。（新たな取組みは次のとおり）

みんなで地域のことを話し合う場をつくります

孤立を無くします

団塊の世代の地域デビューを応援します

災害時のボランティア活動に備えます

福祉の心を育てます

障がいのことについて理解を広めます

ふれあい福祉友愛まつり開催

9月13日(日)午前10時から、菊水のぎく公園(菊水1条4丁目)で「第28回ふれあい福祉友愛まつり」が行われました。この催しは「札幌市手をつなぐ育成会(廣岡博会長)」が主催し、菊水南連合町内会が後援しているものです。

この団体は知的障害者の福祉を推進するための運動体で、福祉活動を行う「札幌親会」と「朔風」の二つの社会福祉法人を傘下におさめています。公園の近くの社会福祉施設「菊水ワークセンター」もその一つで、旧札幌市東福祉事務所の空き施設を利用し、途中新築を加え、平成5年9月から現在地で活動を続けています。

当日は、南連合町内会の細野会長が出席し、お祝いの言葉をお届けしました。長いお付き合いですし、地域の中にある施設です。これからもお互いに支えあっていきたいと思います。



開会式でお祝いの言葉を述べる細野会長



のぎく公園でのふれあい福祉友愛まつり会場全景

コンクール受賞を機会に

よつ葉のクローバーを愛読していただいている皆さん、こんにちは。私は編集員の枝元です。本来編集員が紙面に登場することはなく、異例ですがご挨拶させていただきます。

この度、札幌市社会福祉協議会が主催する「福まち活動写真および広報紙コンクール」で菊水地区福まちから応募しました作品が、写真の部で最優秀賞を広報紙の部で審査員特別賞を頂きました。

勿論、これは小生一人の栄誉であるわけがなく、編集委員会全員のものであること



はいうまでもありません。東、西、南、北、上町の各連合町内会の編集員や福まち会長および事務局長などにより構成され、毎月定期的に行われている編集委員会での活動の成果であります。



小生が、故あって単位町内会の役員を辞任していたとき、友人の紹介で福まちの細野会長が小生宅を訪れました。三顧の礼をもって広報の仕事を手伝うようにと請われてから早くも3年目になります。

小生77歳。福祉の道を歩くこと50余年。いわば恩返しのつもりで続けているこのボランティア活動が、皆さんのお役にたっているとすれば、これにすぐる喜びはありません。老人の生きがいは、社会的役割を与えられることから生まれるものです。これからもできる限り続けさせていただきたいと思っています。

よつクロ編集員 枝元 政肇

高齢者のふれあい交流会開催のお知らせ
今年度第2回目の標記交流会を、11月17日(火)に行います。回覧板でお知らせしますが、お早めにお申込ください。

編集後記 朝夕、めっきり涼しくなって本格的に秋がやってきました。おまけに新型インフルエンザまでがやってきました。お体大切に。 枝元編集員